



講師 錦田愛子 准教授

NISHIKIDA Aiko, Ph.D.
慶應義塾大学法学部政治学科
(現代中東政治、移民／難民研究)

<プロフィール>

- ・2019年度 - 2021年度：慶應義塾大学，法学部(三田)，准教授
- ・2014年度 - 2018年度：東京外国語大学，アジア・アフリカ言語文化研究所，准教授
- ・2017年度：東京外国語大学，アジア・アフリカ言語文化研究所，研究員
- ・2015年度：東京外国語大学，アジア・アフリカ言語文化研究所，准教授
- ・2010年度 - 2013年度：東京外国語大学，アジア・アフリカ言語文化研究所，助教
- ・2009年度：早稲田大学，イスラーム地域研究機構，助手
- ・2008年度：東京外国語大学，アジア・アフリカ言語文化研究所，研究員

<学位>

- ・博士（文学）（総合研究大学院大学）
- ・修士（法学）（東京大学）
- ・学士（法学）（東京大学）

<受賞>

- ・2016年7月 大同生命地域研究奨励賞
「中東地域における離散パレスチナ人難民に関する人類学的・政治学的研究」
公益財団法人 大同生命国際文化基金

■ 主な著書

- ・『政治主体としての移民／難民——人の移動が織り成す社会とシティズンシップ』
錦田愛子（編著），明石書店，2020年3月
- ・『移民／難民のシティズンシップ』有信堂高文社，2016年3月
- ・ディアスポラのパレスチナ人—「故郷（ワタン）」とナショナル・アイデンティティ
有信堂高文社，2010年2月

講師派遣のご案内

- 日時:2021年11月20日（土）
13:30～17:00
- 場所:オンライン開催（ZOOM）
- 演題:身近なところから考える
中東、難民問題

20年前の2001年9月11日に起きたアメリカ同時多発テロ事件をきっかけが軍事作戦は、2021年9月、アメリカ軍がアフガニスタンから完全撤退し、「アメリカ史上、最も長い戦争」が終了した。20年間で難民は約590万人ともいわれる。一方、我が国は原油輸入の約9割、天然ガス輸入の約2割を中東に依存しており、供給源の多角化に加え、中東産油国との良好な関係を深化させることが重要である。この講義では、中東諸国を身近なことから現在、今後の課題など考察する。

■ 当日のスケジュール

- 13:20～13:30 ZOOM入室
- 13:30～15:00 講義
- 15:00～15:15 休憩
- 15:15～16:45 講義
- 16:45～17:00 質疑・応答

■ 申込方法

講師派遣の申込方法は、会員の方は所定の方法により、会員以外の方は埼玉慶友会HPをご覧ください。Zoomへの入室ID・PWは参加希望者にお知らせします。

■ 主な論文

- ・「ドイツの移民政策と地域社会——欧州難民危機を受けたドイツ社会の対応——」
錦田愛子・万城目正雄・川村千鶴子編著『インタラクティブゼミナル 新しい多文化社会論——共に拓く共創・協働の時代』（東海大学出版部） 199 - 210 2020年2月
- ・「紛争・政治対立と移動のダイナミクス——移民／難民の主体的な移動先選択」
錦田愛子・小泉康一編著『「難民」をどう捉えるか——難民・強制移動研究の理論と方法』（慶應義塾大学出版会） 81 - 96 2019年9月
- ・「離散から70年——パレスチナ難民の帰還をめぐる思い」『現代思想』（青土社）（2018年5月） 2019年4月
- ・「エルサレム（イスラエル／パレスチナ）——聖地をめぐる静かな分断」錦田愛子・松原康介 編『地中海を旅する62章——歴史と文化の都市探訪』（明石書店） 282 - 286 2019年2月
- ・その他、『ニューズウィーク日本版』、『移民・ディアスポラ研究』など総説・解説等多数。

主催：埼玉慶友会

<http://saitamakeiyu.web.fc2.com>